



### 寺沢組合長に聞く

昨年度の決算や気候変動対策、今後の展望を寺沢春彦組合長に聞いた。

— 2期ぶりの黒字を確保し、販売事業の受託販売取扱高も伸長した。「中身を精査すると、

「中身を精査すると、さまが良いのを作ろうと頑張った結果が決算に表れた。あらためて日々の努力に感謝したい」

— 政府も不漁の要因は

# 総代会 剰余金 2億4501万円

## 総代会



宮城県漁業協同組合 通常総代会

書面を含む総代140人が出席。5年度の事業（前年度は1億9786万円の事業利益、経常利益は2億6743万円（前年度比24%減）だった。

### 5年度決算、2期ぶり黒字

当組合は6月28日、通常総代会を塩釜総合支所で開き、令和5年度決算や6年度事業計画など8議案を原案通り承認した。5年度は海洋環境の変化で養殖業生産量が振るわなかったものの高単価を維持。販売事業の受託販売取扱高は前年度を0.2%上回る358億3904万円と、東日本大震災以降の最高を2期連続で更新した。当期剰余金は2億4501万円（前年度は2798万円の当期損失金）で、2期ぶりに黒字となった。

損失は1億2411万円（前年度は1億9786万円の事業利益、経常利益は2億6743万円（前年度比24%減）だった。

養殖主要5品目の概況は、乾のりが大シケで甚大な被害を受け、減産を余儀なくされたが、他産地の不作もあり価格が高騰。カキは高温によるへい死が頻発したものの、海外需要の高まりもあり高値で取引された。

### 気候変動であると認めている。対策はあるか。

「近年の異常な高温はこれまで経験したことのない現象だが、漁業は自然に対応しながら発展してきた歴史がある。高き課題はたくさんある」

### 当該事業年度および直前3事業年度の事業成績ならびに財産および損益の状況

(令和5年度「業務報告書」から。単位：円)

区分	項目	令和2年度	3年度	4年度	5年度(当期)
財務	事業利益	△2,594,460	79,450,193	197,863,205	△124,106,057
	経常利益	114,474,205	203,078,147	353,596,238	267,425,897
	当期剰余金	113,647,993	208,065,508	△27,978,692	245,006,919
	総資産	80,950,970,335	85,962,962,730	89,013,018,743	93,308,961,836
	純資産	5,893,327,375	5,960,700,063	5,502,713,841	5,691,858,760
	単体自己資本比率	16.65%	16.15%	14.54%	14.79%
信用事業	貯金	70,667,701,707	75,388,250,115	78,491,069,286	80,667,288,983
	預け金	57,467,215,779	62,186,095,639	65,707,350,255	63,856,304,814
	貸出金	12,082,172,183	12,098,000,108	10,872,125,683	11,873,699,961
共済事業	長期共済保有高	53,335,300,000	50,397,900,000	48,136,000,000	45,092,100,000
	短期共済契約高	45,800,000,000	45,498,160,000	47,671,570,000	46,181,020,000
購買事業	石油類供給高	2,555,628,142	3,155,998,894	3,666,795,257	1,960,217,268
	資材類等供給高	4,203,221,393	3,740,872,753	4,514,884,643	6,990,230,347
販売事業	受託販売取扱高	24,701,227,477	26,054,993,954	35,766,528,741	35,839,043,687
	買取販売高	1,343,396,660	617,829,153	632,761,876	2,280,584,370

## 不漁対策待ったなし なりわい継続へ全力

温耐性に優れた種苗の開発に産官学で取り組んでいる。いかなければならない。現在の市場価格が未来永劫（えいごう）続くとは思っていない。高品質で安定した生産体制を早急に構築する必要がある」

「魚種転換」は国内で広

「先の見えない不漁に不安を抱えている漁業者も多い。若手後継者の確保と育成も急務だ。」

「組合員の皆さまが安心してなりわいを維持・継続できるように、がんばる漁業」など国の助成制度を活用しながら支えていきたい。魅力とやりがいを感じて飛び込んでくる人材であれば、県外からでも積極的に受け入れてほしい。浜で水揚げされたものを全国に広くPRできるようなプラットフォームの構築にも力を入れていきたい」

「種苗の入手はどうするのか、どの漁場で養殖するのか、整理すべき課題はたくさんある」

「従来いた魚がいなくなっている一方、タチウオなど増えている魚もある。県と歩調を合わせ、漁具の購入費などを支援していきたい。魅力とやりがいを感じて飛び込んでくる人材であれば、県外からでも積極的に受け入れてほしい。浜で水揚げされたものを全国に広くPRできるようなプラットフォームの構築にも力を入れていきたい」



## 4年ぶり料理教室 自慢のレシピ伝授

### 歌津、網地島女性部

当組合の歌津、網地島両支所の女性部は令和5年度「地域住民と漁村女性の交流事業」として、石巻市のみやぎ生協蛇田店キッチンスタジオで、料理教室を開いた。用意したレシピは共に4品。女性部メンバーが講師を務め、調理と試食を楽しむながら交流も深めた。

料理教室はコロナ禍を経て4年ぶりの開催。定員を超える応募があった。参加者は「レパートリーが増えた」「高級食材も味わえてリッチな気分」などと満足げだった。

## ホヤ10ト 特売 生産を後押し

### みやぎ生協



みやぎ生協（仙台市）は6月1、2の両日、県内全47店舗で県産ホヤの販売促進キャンペーンを展開した。昨夏の記録的な猛暑の影響で減産が見込まれる中、早朝に水揚げされた殻付きや加工品など計10トを値下げして「大放出」。消費を喚起し、生産を後押しした。

「むすび丸」が応援に駆け付け、買い物客にPR。みやぎ生協の仕入れ担当者「例年に比べてやや小ぶりだが、実はしっかり入り、味もおいしい。規格外品は加工に回すなど、漁業者の皆さまが安心して生産できる販売体制を整えていきたい」と話した。

# 総会開き役員改選 新部長に赤間さん

## 青年部

県漁協青年部は7月17日、仙台市青葉区の江陽グランドホテルで通常総会を開いた。令和6年度の事業計画を承認したほか、任期(2年)満了に伴う役員改選で赤間拓哉さん(松島支所青年研究会)を新部長に選んだ。



赤間拓哉新部長

部)は顧問に就任した。能登半島地震の被災地支援のため募金活動を行い、33万7406円を寄付したことも報告された。赤間新部長は就任のあいさつで「新体制で事業の推進に努めていきたい」と意欲を示した。

総会終了後に開かれた研修会では、宮城海上保安部の交通課職員が「宮城県内の漁船海難などの現況」と題して講話。今年には船舶事故が多発しているといい、気象情報の確認などを呼びかけることも、▽ライフジャケットの着用▽防水ケ

1スに入れた携帯電話を持つ▽海の事故や事件はの3点の実践を促した。石川の「同志」招待 強い漁業へ再建支援

は6月12、14日、能登半島地震で被災した石川県漁業協同組合青壮年部連



谷川支所の稚ナマコ中間育成施設を視察する一行(6月13日) 竹内大生会長(七尾支所運営委員長)ら5人が石巻市や女川町、南三陸町など沿岸部の被災地を見て回った。阿部誠二さん(当時部長)の案内で。

底引網漁を営む竹内会長は「海底の地滑りなどの影響も懸念材料。新たな収入源を確保する必要がある」と強調。カキなどの養殖業にも力を入れる考えで、「なりわいを取り戻す。乗り越えて、さらに強い漁業を推進したい」と前を向いた。

阿部さんは「養殖業の技術を積極的に提供していきたい」と話し、継続的な支援を約束した。

県内の漁業者として初めてJF全国漁青連の会長に就任した。「各地で活動する青年部の先導役になりたい。使命感と情熱を持って臨む。どんな小さな声も吸い上げ、広く発信するのが「会長役割」と強調する。

「小さな声吸い上げたい」 昨年度までは副会長を務めた。「息子が将来、漁業を職業の選択肢の一つとして考えてくれるような環境を整えていきたい」。任期は2年。前会長が推進した「海を守る」事業をフラッシュアップする方針だ。飲食店で漁の技術や魚への思いを語る「漁師ナイト」の

開催も思い描く。石巻市の鮫浦漁港で「丸直栄漁丸」の屋号で漁船漁業と養殖業を営む。昨年からカキ養殖を始め「1年目に身入りも良く、ますますの出来。不振のホヤを補えそう」と笑顔を見せる。水産資源を守ろうと、

ヒラメなどの刺網漁では網目を大きくした漁網を使い操業している。13年前の東日本大震災で被災。一人としてても、能登半島地震の復旧・復興に関わっていく構えだ。「震災後、北陸からも多くの支援を受けた。恩返しにしたい」と言葉に力を込めた。

事業計画など承認 永年勤続者表彰も 女性連

計画の承認や永年勤続者の表彰などを行った。事業計画の柱は▽組織の強化と活性化▽水産物の消費拡大▽健康な暮らしと環境保全運動の推進▽漁協全利用と生活設計

の推進——の4点。小中学生を対象にした第40回「みやぎの海の子」作文の募集や料理教室の開催、ライフジャケットの着用推進、わかしお石けんの普及などに取り組む。

総会終了後に研修会が開かれ、県水産技術総合センター環境資源チームの伊藤博主席主任研究員が「温暖化の影響による海洋環境の変化について」と題して講演。「海洋熱波」と呼ばれる急激な海水温上昇で、冷水を好む魚には厳しい環境であることなどを解説した。

# 協同組合論

北海学園大学 経済学部教授 濱田 武士

34



生産労働人口(15歳〜65歳)が減少していく中で、あらゆる業界が人手不足に悩まされています。この悩みは、少子高齢化が進む中で、単に若年層の採用に苦労しているだけでなく、仕事のやりがいを見失った中堅・若手の離職者も出て、その穴埋めができないでいるということもあります。

漁協も同じ状況です。職員が不足して、これまでと同じような人員配置ができない支所が増えています。そのことから、支所を統廃合する方向性が強まっています。

統廃合により、残った支所に所属する組合員は従来に近い状況が維持されますが、廃止された支所の組合員は支所が遠くなり、慣れない環境を強いられる。職員との間にあった阿吽(あう)

ん)の呼吸で行われていたやりとりも通じなくなることが考えられます。職員一人当たりの組合員数や管轄範囲が増えることになり、遠隔地の組合員との距離が広がってしまいうまうエリアが出てしまいます。

統廃合により、残った支所に所属する組合員は従来に近い状況が維持されますが、廃止された支所の組合員は支所が遠くなり、慣れない環境を強いられる。職員との間にあった阿吽(あう)

統廃合により、残った支所に所属する組合員は従来に近い状況が維持されますが、廃止された支所の組合員は支所が遠くなり、慣れない環境を強いられる。職員との間にあった阿吽(あう)

統廃合により、残った支所に所属する組合員は従来に近い状況が維持されますが、廃止された支所の組合員は支所が遠くなり、慣れない環境を強いられる。職員との間にあった阿吽(あう)

統廃合により、残った支所に所属する組合員は従来に近い状況が維持されますが、廃止された支所の組合員は支所が遠くなり、慣れない環境を強いられる。職員との間にあった阿吽(あう)

統廃合により、残った支所に所属する組合員は従来に近い状況が維持されますが、廃止された支所の組合員は支所が遠くなり、慣れない環境を強いられる。職員との間にあった阿吽(あう)

# 職員不足、どう解決?

統廃合により、残った支所に所属する組合員は従来に近い状況が維持されますが、廃止された支所の組合員は支所が遠くなり、慣れない環境を強いられる。職員との間にあった阿吽(あう)

統廃合により、残った支所に所属する組合員は従来に近い状況が維持されますが、廃止された支所の組合員は支所が遠くなり、慣れない環境を強いられる。職員との間にあった阿吽(あう)

統廃合により、残った支所に所属する組合員は従来に近い状況が維持されますが、廃止された支所の組合員は支所が遠くなり、慣れない環境を強いられる。職員との間にあった阿吽(あう)

統廃合により、残った支所に所属する組合員は従来に近い状況が維持されますが、廃止された支所の組合員は支所が遠くなり、慣れない環境を強いられる。職員との間にあった阿吽(あう)

漁協女性の歌を斉唱する部員

船員と陸上労働者の災害発生率の比較 (単位:千人率)

	令和2(2020)	3(2021)	4年度(2022)
船員(全船種)	7.8	8.1	7.3
漁船	11.5	12.9	10.8
一般船舶	6.4	6.2	6.4
陸上労働者(全産業)	2.2	2.3	2.3
林業	25.4	24.7	23.5
鉱業	10.0	10.8	9.9
運輸業(陸上貨物)	8.9	9.1	9.1
建設業	4.4	4.6	4.5

全産業平均の約5倍

また、全戸訪問を軸とした「浜のあんしんサポート運動」を継続展開し、漁村地域で活動するJF組合員・漁家世帯のご家族および地域の皆さまの生活・福祉の向上を目指し、すべての皆さまに寄り添いながら、保障を提案します。

組合からのお知らせ

指導部共済課

今年度の共済事業については、「浜の保障をJF共済で守る」ため、組合員の皆さまに對するご提案活動の充実に向けて各支所で訪問計画を策定し、「ふれあい運動」として提案活動を強化しております。

JF共済 生命共済「チョコー」(普通厚生共済)では大きなケガから小さなケガまで不慮の事故による後遺障害を1~12級まで

153項目にわたり幅広く保障いたします。

JF共済は、漁業に従事している方のために考えられた保障です。漁業従事者における労働災害発生率は、陸上における全産業の平均の約5倍と、高い水準が続いています。漁業の職業上の特徴として、海上における不安定な漁船での作業や、漁船運航上の諸リスクなどにより危険が高くなるケースもあります。生命共済「チョコー」(普通厚生共済)では、不慮の事故による後遺障害の状態になった場合、153項目にわたり手厚く保障します。海難事故の防止とともに万一のケガに対する保障を万全にしよう。保障内容などについてお問い合わせは各支所へお願いします。



ニューフェイス 「みんな職員になりたい!」

当組合は4月1日、6人の新入職員を迎えました。希望や決意を胸に配属先で一生懸命仕事を覚えています。皆さん、よろしくお祈りします。(名前の読み=年齢、出身地)

何事も全力で 本所指導部

峯井 美和 (みねい・みわ=18、石巻市)

私は、視野が広く、物事を柔軟に考えることができる職員になりたいです。なぜなら、柔軟に考えることにより、さまざまな場面で臨機応変に対応できるようになると考えているからです。そのためにも、仕事をしたい中で、どうしても分からないことがあったら先輩方に指導してもらい、率先して仕事に取り組み、何事にも全力で挑戦していこうと考えています。

地元ののために 唐桑支所

伊藤 遥希 (いとう・はるき=18、気仙沼市)

私は地元気仙沼の漁業を支え、気仙沼の水産業を盛り上げられるような職員になりたいです。そのためには漁業者の方々との関係を深め、支所の先輩方から課せられた仕事にきっちり取り組みたいと思います。社会人になったばかりで不安なところもありますが、安心して仕事を任せられるように全力で業務に努め日々精進していきます。

信頼勝ち取る 歌津支所

阿部 響 (あべ・ひびき=24、南三陸町)

私は、信頼される職員になりたいと思っています。漁業協同組合は、組合員の皆さまのおかげで成り立っています。そのため職務を円滑に行うには、組合員さまの信頼と協力を得ていかねばなりません。信頼していただくには、自分の担当する仕事を最後までやり遂げ、誠実に対応することが大切だと考えます。組合員の皆さまと接することが多い分、安心して仕事を任せいただくために節度ある態度を保ち、接遇の重要性を第一に考え、最善を尽くしていきます。

常に元気よく 表浜支所

堀村 雄治 (ほりむら・ゆうじ=35、女川町)

私は、元気なあいさつのできる職員になりたいです。人として基本的なことですが、忙しい時や気分の優れない時など、実践することが難しい場合もあります。そんな時こそ元気を出して、周りの方々をも明るくさせられるように努めます。組合の業務は初めて経験することも多いですが、先輩職員や漁業者の方々のご指導に報いるよう早く仕事を身に付けたいです。初心と感謝の気持ちを忘れず、一生懸命頑張ります。

水揚げに貢献 石巻湾支所

菅原 遥人 (すがわら・はると=24、登米市)

漁業者の役に立てる職員になりたいと考えています。現場での仕事も増えてくるので漁業者の方々との交流を深め、日々の職務を通して、支所の先輩方の良いところを見習い、さまざまなことを学んでいきます。漁業者あつての私たちの職務だと思います。漁業者の方々の水揚げを増やすことに貢献できるよう、何事にも積極的に取り組み、経験を積んで、立派な職員になれるよう頑張っていきます。

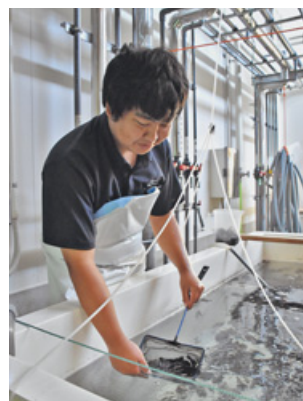
より意欲的に 寄磯前網支所

渡辺 衣織 (わたなべ・いおり=22、石巻市)

昨年の5月から臨時職員としてお世話になっております。働いていく中で、多くのことを教えていただき、たくさん学びと経験を得ました。これからは、より意欲的に業務に取り組み、日々の学びを大切にしていきたいです。大好きな海、そして幼い頃からお世話になっている組合員の皆さまに、職員として携われることが大変うれしく思います。まだまだ未熟ではありますが、さらなる発展ができるように努力し、組合員の皆さまが安心して頼れる職員になりたいです。

ホシガレイ資源増へ 種苗の大量生産成功

水産振興協会



種苗生産の技術向上に励む水産振興協会の職員

公益財団法人宮城県水産振興協会(石田幸司理事長)は今年、ホシガレイ種苗の大量生産に成功した。ホシガレイはヒラメの2~3倍以上の単価で取引される。主要魚種の水揚げ低迷が続く中、漁業所得の向上と資源の維持・増大につなげる。県資源管理型漁業実践協議会(事務局:当組合)が国の補助金と漁業者からの水揚げ協力金(7%)を活用し、水産振興協会にホシガレイの種苗生産と中間育成・放流を委託。同振興協会は今年1月、岩手県の栽培漁業協会から受精卵10万5千粒を購入した。七ヶ浜町の県水産技術総合センター種苗

4月下旬には、岩手県の栽培漁業協会から3~4歳の稚魚7万7千尾を搬入し、約8ヶ月で中間育成した後、6月下旬に北・中・南部各地区の栽培漁業関連団体の協力を得て放流。当組合などに配布された中間育成用種

生産施設で育成し、4月下旬、平均体長4~1歳の中間育成用種苗5万7500尾を当組合の志津川、唐桑、七ヶ浜の3支所と牡鹿漁協に無償配布した。

苗も順調に育成し、県内の稚魚放流数は3年ぶりに10万尾を上回った。漁業者からは県内で採卵を望む声も多いが、施設

の規模的に難しいという。石田理事長は「地球温暖化の影響で海洋資源が減少する中、栽培漁業の重要性は今後ますます増していくだろう。高値で取引されるホシガレイの種苗生産を進め、漁業者のニーズに少しでも応えていきたい」と話す。

新たに13人認定 退任者に感謝状 県漁業士制度



令和6年度「県漁業士退任・認定式」が6月4日、仙台市青葉区のホタル白萩で開かれた。指導9人、青年4人の新規漁業士計13人が認定証を交付したほか、5年度で退任した指導漁業士5人に感謝状を贈呈した。

池田敬之副知事(当時、県漁業士会の小野寺和義漁業士に新たに認定された当組合員ら

長、当組合の奥田一也常務理事ら関係者が出席。青年漁業士に認定されたカキ養殖業の木村幸喜さん(鳴瀬支所)は「漁業を取り巻く環境は年々厳しさを増しているが、自ら考え、行動することで打開したい。技術の取得と情報の収集に努め、県内に広く伝えていく」と決意を示した。 県の漁業士認定制度は昭和61年度に始まり、今年度までの認定者は指導174人、青年215人の計389人。このうち

指導74人、青年45人の計119人が現役の漁業士として活躍している。木村さんを除く新規認定者と退任者は次の通り(敬称略、かつこ内は所属支所)。 指導漁業士 伊藤広樹(大谷本吉) 阿部豊(表浜) 石森昌洋(同) 木村雅光(同) 佐藤和也(同) 木村隆之(同) 後藤章(石巻市東部) 横山正俊(石巻湾) 木村宏(仙南・巨理) 青年漁業士 菊田守一(気仙沼地区) 村上昇(同) 及川博海(歌津) 退任者 菅原富男(大谷本吉) 佐々木昇記(志津川) 豊嶋恵美子(石巻地区) 阿部雄美(矢本) 岩佐敏(仙南・山元)

# 仙台中心部でPR

## 多彩な料理求め1万1000人来場

### ホヤ



大勢の来場者でにぎわう祭り会場



みやぎサーモンの販売ブースも大盛況

県産海産物の魅力を広く発信する「ほや祭り2024」&銀ざけ・ほたてフェア」が5月3日、仙台市青葉区の勾当台公園市民広場で開かれた。晴天の下、県内外から約1万1千人が来場。ホヤが主役のピザや焼きそば、ギンザケのバーガーなどに舌鼓を打ちながら、多彩な催しを満喫した。

当組合や県など5者で一年で6回目。県内の飲食店や水産加工会社など約30のブースを構え、ホヤを使った料理では、春巻きやかき揚げ、アヒージョなども並んだ。ホヤ釣りを楽しめるアトラクションも人気だった。

## 平成以降最高750円 市場価値年々上昇

### ギンザケ



県産養殖ギンザケの水揚げが7月18日で終了した。今季実績（速報値）は数量が1万2739ト（前季比27%減）、金額が95億5337万円（同20%減）。平均単価はキロ750円（同9%高）で、平成以降で最高だった令和4年の724円（確定値）を上回った。

今季は高温で、平成以降で最高だった令和4年の724円（確定値）を上回った。

に伴い稚魚の海面いけす搬入が例年より2週間ほど遅れた影響で、初水揚げも3月下旬にずれ込んだ。内水面での中間育成時の死滅などで搬入量自体が少なかつた上、春以降の水温上昇が早く、給餌量が鈍化。成長ペースが上がらず、減産となった。

県産ギンザケの市場価値は年々上昇。チリ産と差別化されるようになった。国の地理的表示（GI）保護制度に登録される活締めブランド「みやぎサーモン」の引き合いも強まっている。海洋環境の変化で水揚げできる期間は短縮傾向にある。搬入する稚魚の大型化を進めるほか、関係機関と協力して高温耐性にも優れた種苗の開発にも力を入れていく。

## 色艶保ち22円56銭 44季ぶり高値更新

### 乾のり



猛暑で遅れたものの上物が並んだ初入札会

県産乾のり「みちのく寒流のり」の入札会が昨年12月2日〜今年5月10日、13回にわたって塩釜総合支所・乾のり集出荷所で開かれた。共取数量は2億8110万枚（前季比17%減）で、平均単価は過去最高の1枚22円56銭（同39%高）。有明海産の不作が続いてメーカーや商社の在庫が不足する中、シーズンを通して高い品質を維持した県産が高値で落札された。前季比2倍の1枚平均

1枚とにぎりずしを提供。ホタテ貝柱のしょうゆ焼きを振る舞うブースにも行列ができた。最もおいしいホヤ料理を来場者の投票で決める

レシピグランプリでは、21品の中から最高賞の金賞にワタキ水産（石巻市谷川浜）の「ほや3種盛り合わせ」が選ばれた。昨夏の酷暑で生産が厳しく開催開会のあいさつで寺沢

組合長は「ホヤは繊細な海産物で、おいしく食べられるには鮮度保持と調理の腕が欠かせない。昨夏の酷暑で生産が厳しく開催開会のあいさつで寺沢

ファンが来てくれて心強い。創意工夫を凝らした栄養満点で味自慢の一品をたくさん食べ、夏に向けて元気を蓄えてもらえれば」と語った。

今季累計の22円56銭は昭和54年度（16円51銭）を37%上回り、44季ぶりに過去最高を更新。販売額は63億4083万円（前季比15%増）と、平成17年度以来の60億円台に乗せ、震災後最高だった令和4年度を8億4940万円上回った。

## 品質向上努め414円 シケ乗越え6割高

### ワカメ

県産「三陸わかめ」の入札会が2〜5月、10回にわたって気仙沼市のわかめ流通センターで開かれた。JF全漁連東北事業所のまとめ（5月11日現在）によると、共取数量（原簿換算）は4995ト（前季比49%減）と半減。収穫前の大シケや高温の影響が響いた。

み込みが遅れた上、1月下旬に発生した脱落などのシケ被害は東日本大震災以降で最大規模だった。数量は振るわなかったものの品質感が強まり、平均単価はキロ414円（同62%高）と高騰。金額は20億6928万円（同17%減）だった。

品目別の数量はポイル芯抜761ト（同43%減）、ポイル芯付1288ト（同59%減）、生1184ト（同58%減）。キロ平均単価はポイル芯付1304円（同72%高）、生1110円（同29%高）だった。

2月27日の初入札会で本質を確認する買受人

令和5年度の県産ホタテの共取数量は5372ト（前季比19%減）にとどまった。海水温の上昇に伴うへい死や種苗の生残率低下が不漁の要因として挙げられる。

近年はまひ性貝毒が広範囲で長期化し、夏場に主力の活貝が安定出荷できていない。高温で水揚げも振るわれない中、当組合は流通推進に向け、玉冷II写真IIを首都圏の高級寿司店や日本料理店に展開。Mサイズ以上を主力とする貝柱の大きさと、刺身グレードを広くアピールする。米国や欧州連合（EU）など海外への販路開拓・拡大も目指す。

## 生産に苦戦も 10キロ2万2301円 鮮力キ



県産生食用むき身力キ（鮮力キ）の出荷が6月末で終了した。共取数量は854ト（前季比44%減）で大減産となった。

昨年10月30日に出荷スタートし写真真。海水温の高止まりで成育が遅れ、県が指針とする解禁日（9月29日）より1カ月ほど、令和4年より19日遅れ込んだ。

東日本大震災があった平成23年と並び、最も遅い初入荷となった。高温の影響でへい死が相次いだほか、今年1月下旬の大シケでは脱落や施設被害が発生し、生産量は振るわなかった。他産地の不振もあって平均単価は10キロ2万2301円（同11%高）と記録的な高値を付けたが、金額は19億438万円（同38%減）にとどまった。



均単価はポイル芯抜2226円（同54%高）、ポイル芯付1304円（同72%高）、生1110円（同29%高）だった。

2月27日の初入札会で本質を確認する買受人

## 単価維持456円

### ホタテ 玉冷販促に力



ALPS処理水の海洋放出を巡り、中国が日本産水産物の輸入を全面停止したこともあり、北海道産が輸出から国内流通に回ったことで、キロ500円台半ばで推移していた価格は3割下落。平均単価は456円（同5%高）となり、金額は24億4770万円（同15%減）に落ち込んだ。